

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 5 日現在

機関番号：15401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24820030

研究課題名(和文) 1760-1840年におけるマレー海域の動態：ヒトとモノの移動と「近代」

研究課題名(英文) Malay Waters in Transition: Migration, Trade, and Modernity, 1760-1840

研究代表者

太田 淳(Atsushi, Ota)

広島大学・文学研究科・准教授

研究者番号：50634375

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円、(間接経費) 450,000円

研究成果の概要(和文)：1760-1840年代のマレー海域は独立王国の末期と植民地時代の初期にあたり、これまでは衰退と混乱の時代と考えられて来た。しかし、国家ではなく、ヒトとモノの移動に着目するならば、この時期は特に中国市場と結びついた貿易が活発化し、それに伴って移民がさかんに行われた、活力に満ちた時代であったことが確かめられた。輸産物の主軸がそれまでの限られた希少産品から、海産物・森林産物といった消費産品に移ったことから、より広い社会が世界市場と結びつき、市場志向化した。このような変化を、ヨーロッパ・インパクトに拠るのではない一種の近代化と捉えることが可能であろう。

研究成果の概要(英文)：In the Malay Waters, the 1760s-1840s, which falls on the end of independent indigenous states and the beginning of colonial states, has been considered to be the period of decline and confusion. If we focus not on states but on migration and trade, the period was rather a booming period, which witnessed the strong trade with China, and concomitant active migration. As major exports shifts from the limited precious natural products in the earlier times to the mass-consumption items such as marine and forest products, local society in many places was linked to the world market and became more strongly market-oriented. It is possible to conclude that these changes meant a form of modernity, which did not necessarily result from Western impacts.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：東洋史

キーワード：マレー海域 貿易 海賊 移民

1. 研究開始当初の背景

1760年代から1840年頃の西部マレー海域（以下、マレー海域）の歴史に関する先行研究は、概ね個別的・断続的であった。つまり、研究者は(1)マレー半島、スマトラ、ジャワ、カリマンタン(ボルネオ)に展開した現地国家または植民地国家の歴史を国ごとに個別に議論し、(2)植民地化によってそれまでの時代とは断絶的な「近代的」植民地政治、経済、社会構造が構築されたと論じてきた。

2. 研究の目的

本研究はオランダ、イギリス、マレー語の一次資料を検証し、特に様々なグループの人々による移民と貿易の動きを明らかにする。それにより、上記の陸地に囲まれたマレー海域はダイナミックなヒトとモノの動きによって結びついた越境的かつ一体的な歴史空間であったこと、そのダイナミズムは近代的要素を取り入れつつも植民地期以前から植民地期まで連続したことを明らかにする。

3. 研究の方法

(1)オランダの文書館・図書館における資料調査：国立文書館（ハーグ）では、オランダ東インド会社とオランダ植民地文書に含まれる、リアウ、パレンバン、ポンティアナックのポストで作成された資料から、移民と貿易、それらが社会に与える影響についての情報を探る。王立言語地理民族学研究所（ライデン）では、19世紀以降の先行研究を調査する。

(2)現地社会における聞き取り調査：本研究では、時間的・予算的制約から西カリマンタンに焦点を当てる。当該時代に重要であった場所を訪問し、資料上確かめられる歴史上の出来事について人々に質問し、地域の歴史が現在の人々にどのように記憶されているかを確かめる。

4. 研究成果

(1)マレー海域が一体的歴史的空間としての内的結びつきを強めるようになった重要な一つ

の契機は、ジョホール王国の都リアウが1760年頃に貿易センターとして台頭したことに求められる。リアウの取引範囲はシャム湾から東部インドネシアにまで及ぶが、オラン・ラウトやブギス人などの活発な移民を伴う域内貿易が展開したのは、特にマレー海域であった。

(2)マレー海域でこの時期に貿易と移民が活発化したのは、中国市場を志向した貿易構造が発達したためである。人口希薄な地域で産出される海産物・森林産物を収集するために、マレー人、オラン・ラウト、ブギス人、イラン人、華人などの移民と貿易が活発化し、彼らの定住地が各地に作られた。彼らはマレー海域一帯に、貿易と移民のネットワークを作り上げた。

(3)彼らの貿易活動はオランダ東インド会社の利害と衝突し、オランダ人は1784年にリアウ、1786年にはスカダナを攻撃して破壊した。しかしリアウを逃れたブギス人集団は、ムンパワ、スカダナ、シアンタン、リンガへと、マレー海域の移民定住地を渡り歩きながら貿易を続けた。さらにスカダナ陥落後は、シンパン、マタン、ガヨン、クンダワンガンなど、それを代替する港町が発達した。移民のネットワークによって、リアウとスカダナの陥落後もマレー海域全体で貿易は活発に続けられた。

(4)1820年代からオランダ植民地政庁はリアウ、パレンバン、ポンティアナックなどを拠点に、マレー海域への支配確立を図った。この時西カリマンタンでは、海賊の鎮圧がオランダ人進出の理由付けとされた。それまで彼らは「海賊」と呼び得るアジア人移民集団とたびたび協力してきたのであるが、この時から海賊は「文明」や「自由貿易」と対比される、現地社会の野蛮さと後進性の象徴とされた。

(5)しかしながら西カリマンタンのオランダ植民地当局は、オランダ人の人員だけで支配を確立することは出来なかった。そこで彼らは、人々から元「海賊」と認識されていたシアク人移民集団のリーダー、ラジャ・アキルと協力し、彼の影響力を支配に利用するために、最終的に彼をスカダナのスルタンに任命した。

(6)もっともスカダナにおける聞き取り調査の結果、住民はラジャ・アキルを全くスルタンと認識していないことが分かった。彼らが今もかつての王と認めるのは、ラジャ・アキルによって内陸部への亡命を余儀なくされたパネンバハンである。パネンバハンの子孫たちの墓所には今も地域住民が参詣し、王としての尊敬と崇拝を受けていることを確かめた。

(7)このような考察に基づくならば、マレー海域における「近代」とは、住民が市場志向化し、活発に経済活動に関与して移民を行うようになったことに、一つの大きな契機を求められよう。移民も、ヨーロッパ人によって「海賊」と名付けられた行為も、人々の経済活動への関与の一形態であった。オランダ人は「文明化の使命」を植民地支配正当化の根拠の一つとしたが、実際には「海賊」を含む現地の社会的・商業的秩序をよく理解して、その根本的な変革は試みていない。「近代」とは西洋勢力が暴力的に、現地社会に異質な秩序をもたらすことではなく、外部の経済的刺激を受け、オランダ人支配者と現地住民の交渉と協力の中で、次第に立ち現れて来たものと理解できよう。

(8)このような見解に関しては下記のように多くの学会で報告し、概ね理解を得てきた。今後は、出版を通じた公開と議論喚起が課題である。既に〔学会発表〕、などを通じて共通する関心を持つ国内外の研究者と共に、申請者を編者とする編書を出版（英文）する

ことで合意しており、現在原稿をとりまとめる作業を進めている。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

Ota Atsushi. 2012. "Raja Akil and Maritime Migrants in West Kalimantan, c. 1780-1850." *Hiroshima Interdisciplinary Studies in the Humanities* 10: 45-63. 査読なし。

〔学会発表〕(計10件)

太田淳「インドネシア諸島における貿易構造の変容と西カリマンタン社会(1750~1870年)」、南山大学アジア・太平洋研究所セミナー「世界史の中のインドネシアを考える」、南山大学、2014年3月27日。

Atsushi Ota, "Commodity trade and local society around Dutch Outer-Islands ports, c. 1820-1870," JSPS Asian Core Program Final Workshop "Asian Connections: Southeast Asian Model for Co-Existence in the 21st Century," 10-11 February 2014, CSEAS, Kyoto University.

太田淳「貿易、戦争、移民：18-19世紀マレー海域の海賊」私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「21世紀海域学の創成」公開シンポジウム「海域学の展望を拓く-過去から現在、そして未来へ-」2013年12月22日、東京立教大学池袋キャンパス。

Atsushi Ota, "Makassar and its Trade of Marine Products, 1846-1869," International Workshop "World History for Current Issues (Environmental Issues, Globalization, and Conflicts)," Tokyo University, 5-6 October 2013.

Atsushi Ota, "Trade, Piracy, and Sovereignty: Changing Perceptions of Piracy and Dutch Colonial State Building in West Kalimantan (Borneo) and Riau-Lingga, c. 1780-1830," Association for Asian Studies (AAS) Annual Meeting, 2013年3月21-24日, San Diego Convention Center.

Atsushi Ota, "Piracy and Early Colonial Regimes: Emergence of New "State" Concept and Regional Order in the Nineteenth-century Indian Ocean World," Workshop "Maritime Perspectives in Eurasian and Indian Ocean World History: Towards a Global History," 2013年2月17-18日,

Montreal, McGill University.

Atsushi Ota, "Connection of Maritime Trade and Riverine Trade in West Kalimantan, c. 1820-1850," Second workshop of the Asian Core Program project "Interface, Negotiation, and Interaction," 2013年2月22-23日、京都、京都大学.

太田淳「西カリマンタンにおける内陸支配と貿易の変容, 1820-1850年代」石川基盤S全体会議、2013年1月26-27日、京都、京都大学.

太田淳「西カリマンタンにおける移民と貿易, 1760-1820年代」石川基盤S商品連鎖研究会、「東南アジア交易史における「長期の19世紀」合同研究会2013年1月13日、京都、京都大学.

Atsushi Ota, "From Company to Colonial Regime: A Regional History in Insular Southeast Asia, c. 1770-1830," Conference "The Impact of Japanese-Dutch Relations on the History of Early Modern and Contemporary Asia: The Sources Revisited," 20-21 November 2012, Ajia Kaikan, Tokyo.

〔図書〕(計3件)

太田淳. 2014. 『近世東南アジア世界の変容-グローバル経済とジャワ島地域社会』名古屋大学出版会. 505+ix ページ.

Ota Atsushi. 2014. "Toward a Transborder, Market-Oriented Society: Changing Hinterlands of Banten, c. 1760-1800." In Mizushima Tsukasa and George Souza (eds.), *Place, Space and Time: Asian Hinterlands and Political Economic Development in the Long Eighteenth Century*. Leiden and Boston: Brill, pp. 142-164. 外部査読あり.

Ota Atsushi. 2014. "Toward Cities, Seas, and Jungles: Migration in the Malay Archipelago, c. 1750-1850." In Jan Lucassen and Leo Lucassen (eds.), *Globalising Migration History: The Eurasian experience (16th-21st centuries)*. Leiden and Boston: Brill, pp. 180-214. 外部査読あり.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等 特になし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

太田 淳 (OTA ATSUSHI)

広島大学大学院文学研究科・准教授

研究者番号：50634375